

# 解剖学各論 I

科目責任者 徳田 信子  
学年・学期 2 学年・1 学期

## I. 前 文

「解剖学各論」では、「解剖学概論」で学んだ基礎的知識を土台として、各器官系について、より詳細かつ立体的に人体の構造と機能を学修する。本科目は、後に行われる解剖学実習に先行し、実際に人体を観察・剖出するために必要な空間認識力と構造理解力を養うことを目的とする。

本科目では、諸器官の位置関係や相互の連関を重視し、単なる名称の暗記ではなく、「どこに」「どのように」「なぜその形で存在するのか」を発生学的視点も交えて理解することを目指す。発生過程を踏まえて構造を理解することは、先天異常や疾患の成り立ちを考えるうえで不可欠であり、臨床推論の重要な基盤となる。

また、本科目では、臨床各科の教員による臨床に即した講義や、第一線で活躍する研究者による最先端研究の講義を通して、解剖学が現在進行形の医学・医療・研究とどのようにつながっているかを学ぶ機会を設ける。これにより、ディプロマ・ポリシー「医学知識」に示される、人体の構造と機能に基づく臨床推論能力の基礎を形成するとともに、「リサーチ・マインド」に示される、最新の医学に関心を持ち、専門的議論に参加し、医学の発展に寄与しようとする姿勢を育成する。

## II. 担当教員

教授	徳田 信子	解剖学
准教授	上田 祐司	解剖学
教授	入澤 篤志	内科学（消化器）
教授	志水 太郎	総合診療医学
非常勤講師	河本 宏	京都大学医生物学研究所・所長

## III. 一般学習目標

人体の構造と機能を器官系ごとに体系的に理解し、諸器官の位置関係や発生学的背景、末梢神経の走行と支配を踏まえて、人体を立体的・統合的に把握できる力を養う。また、解剖学の臨床的意義と研究的発展性を理解し、主体的に学修を進める姿勢を身につける。

## IV. 学修の到達目標

- 1) 皮膚の構造と主な機能を説明し、他の器官系との関係を理解できる。
- 2) 心・血管系の構造と主な機能を説明し、発生過程を踏まえて血管配置の成り立ちを理解するとともに、血管走行の臨床的意義を理解できる。
- 3) リンパ・免疫系の構造と主な機能を説明し、発生学的背景を踏まえて循環系との関連を理解できる。
- 4) 肺・気道系の構造と主な機能を説明し、発生過程を踏まえて呼吸器の形態形成を理解し、呼吸運動と構造の関係を説明できる。
- 5) 消化管・肝胆膵の構造と主な機能を説明し、前腸・中腸・後腸の分化などの発生学的視点を踏まえて、位置関係と機能の連関を理解できる。
- 6) 腎・尿路系の構造と主な機能を説明し、腎・尿路の発生過程を踏まえて、排泄機構と構造の対応を理解できる。
- 7) 男性生殖器系の構造と主な機能を説明し、発生学的背景を踏まえて理解できる。
- 8) 女性生殖器系の構造と主な機能を説明し、発生学的背景を踏まえて理解できる。
- 9) 血液・造血器の構造と主な機能を説明し、他の器官系との関連を理解できる。
- 10) 頭頸部の構造を立体的に把握し、重要血管・神経の走行を説明できる。
- 11) 感覚器の肉眼的構造を説明し、機能との関係を理解できる。

- 12) 上肢・下肢の構造を説明し、筋・血管・神経の走行と機能を関連づけて理解できる。
- 13) 胸部・腹部・骨盤の構造を説明し、臓器間の位置関係を立体的に理解できる。
- 14) 背面の構造を説明し、体幹筋と神経支配の関係を理解できる。
- 15) 主要な末梢神経の走行と支配領域を説明し、障害時の症状を構造から推測できる。
- 16) 諸器官の構造を発生学的観点から説明し、形態異常や疾患との関連を考察できる。
- 17) 解剖学が臨床医学および最先端研究と結びついていることを理解し、専門的議論に参加する姿勢を身につける。

V. 授業計画及び方法 \* ( ) 内はアクティブラーニングの番号と種類

- (1: 反転授業の要素を含む授業 (知識習得の要素を教室外で済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態。)  
 2: ディスカッション, デイバート 3: グループワーク 4: 実習, フィールドワーク 5: プレゼンテーション  
 6: その他 空欄: 該当なし)

回数	月	日	曜日	時限	講 義 テ ー マ	担当者	アクティブラーニング
1	4	1	水	4	浅層の構造1	徳田信子	1
2		1	水	5	浅層の構造2	徳田信子	1
3		2	木	1	上肢と腕神経叢	上田祐司	1
4		2	木	2	下肢と腰仙骨神経叢1	上田祐司	1
5		3	金	2	下肢と腰仙骨神経叢2	上田祐司	1
6		7	火	1	呼吸器系・循環器系の器官とその発生1	徳田信子	1
7		7	火	2	呼吸器系・循環器系の器官とその発生2	徳田信子	1
8		9	木	2	消化器系の器官とその発生1	徳田信子	1
9		16	木	1	特別講義: 総合診療からの胸腹部解剖-1	志水太郎	1
10		16	木	2	特別講義: 総合診療からの胸腹部解剖-2	志水太郎	1
11		16	木	3	消化器系の器官とその発生2	徳田信子	1
12		24	金	2	消化器系の器官とその発生3	徳田信子	1
13		27	月	1	特別講義: 解剖学をマスターすることは「できる臨床医」への第一歩-1	入澤篤志	1
14		27	月	2	特別講義: 解剖学をマスターすることは「できる臨床医」への第一歩-2	入澤篤志	1
15	5	1	金	1	血液・脾臓	上田祐司	1
16		1	金	2	造血・骨髄	上田祐司	1
17		11	月	1	特別講義: 再生医療と免疫-1	河本宏	1
18		11	月	2	特別講義: 再生医療と免疫-2	河本宏	1
19		19	火	1	骨盤1 (発生含む)	上田祐司	1
20		19	火	2	骨盤2 (発生含む)	上田祐司	1

回数	月	日	曜日	時限	講義テーマ	担当者	アクティブ ラーニング
21	6	1	月	1	頭頸部1 (頭部の構造と脳神経)	徳田信子	1
22		2	火	1	頭頸部2 (脳神経と咽頭弓)	徳田信子	1

#### VI. 評価基準 (成績評価の方法・基準)

定期試験 (95%)、課題など (5%) により、総合的に評価する。なお、定期試験問題内の英語問題は「医学英語Ⅱ」の評価として集計される。

#### VII. 教科書・参考図書・AV資料

様々な書籍が出版されているので、書店などで実際に手に取り、自分に合ったものを選択すること。  
下記に例示する。

- 1) 教科書：標準解剖学，医学書院
- 2) 教科書：グレイ解剖学，エルゼビア
- 3) 教科書：プロメテウス解剖学 解剖学総論／運動器系，医学書院
- 4) 図譜：プロメテウス解剖学 コア アトラス，医学書院
- 5) 図譜：エッセンツァ人体解剖学アトラス，南江堂
- 6) 図譜：グレイ解剖学アトラス，エルゼビア
- 7) 図譜：ネッター解剖学アトラス，南江堂質問への対応方法

#### VIII. 質問への対応方法

問い合わせ先：解剖学講座 (総合教育研究棟8F)

#### IX. 卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連

\*◎：最も重点を置く DP ○：重点を置く DP

ディプロマ・ポリシー (卒業認定・学位授与の方針)	
<b>医師としてのプロフェッショナリズム</b> 幅広い教養，利他の精神，医師に求められる品格を身につけ，豊かな人間性を育み，他の医療者と協調して，多様な価値観を尊重する全人的な医療を実践できる	◎
<b>能動的学修能力</b> 医学知識・技能を主体的に学び，情報・科学技術を活用して，生涯にわたって自ら問題を発見し，解決することができる	○
<b>地域医療の理解</b> 地域社会における医療の役割と，その中核を担う意味を理解できる	
<b>国際性</b> 国際社会における医学・医療の動向や課題を理解し，課題解決に向けて行動することができる	
<b>リサーチマインド</b> 研究活動における積極的な創造・発信に挑み，医学・医療の進歩に貢献することができる	○

#### X. 課題 (試験やレポート等) に対するフィードバックの方法

間違いや誤解が多い点を随時解説する。

## XI. 求められる事前学習，事後学習およびそれに必要な時間

### 事前学習（目安：20分）

医学書院eテキストやiSmart，推薦されたテキスト，対応する解剖学概論や解剖学各論IIの該当箇所などを事前に熟読し，理解できなかった点や疑問点を整理したうえで講義に臨むこと。事前学習では，知識を単に確認するのではなく，自ら疑問を持ち，学修に主体的に向き合う姿勢を大切にすること。

### 事後学習（目安：15分）

講義内容を復習し，重要事項や概念的な関係を整理するとともに，事前学習で挙げた疑問点について理解を深めること。なお，講義中に示された課題がある場合は，それに取り組むこと。事後学習では，講義内容を受動的に確認するのではなく，自ら問いを立てながら理解を深め，将来医療に携わる者として求められる姿勢を意識して学修に取り組むことを重視する。

## XII. コアカリ記号・番号

シラバス別冊に記載。